



福島原子力事故関連情報アーカイブ

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	福島県内の市町村の除染に関する課題認識 - 過去4年間の比較分析
Alternative_Title	Problem awareness against decontamination in the municipalities of Fukushima Prefecture (comparative analysis for the past four years)
Author(s)	川崎 興太(福島大学) Kawasaki, K.(Fukushima Univ.)
Citation	第5回環境放射能除染研究発表会要旨集, p.22 5th Workshop of Remediation of Radioactive Contamination in Environment
Subject	セッション6: リスクコミュニケーション等
Text Version	Publisher
URL	http://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/109439
Right	© 2016 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第5回環境放射能除染研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。 学会は発表の機会を提供しているもので、内容に含まれる技術や研究の成果について保証しているものではないことをお断りいたします。



福島県内の市町村の除染に関する課題認識 ー過去4年間の比較分析ー

川崎興太 (福島大学)

1. 過去4年間のアンケート調査の概要

筆者は、平成24年から平成27年までの4年間にわたり、除染に関する現状や課題などを把握することを目的として、福島県内の全59市町村を対象とするアンケート調査を実施している(表1)。本稿では、このアンケート調査の結果のうち、市町村の除染に関する課題認識について報告する。

表1 アンケート調査の概要

調査対象	調査期間	配布数	回収数	回収率	調査項目
行政区域の全域が除染特別地域に指定されている7市町村を除く福島県内の52市町村	平成24年7月～10月	52	51	98%	<ul style="list-style-type: none"> ●地域指定の状況、除染実施計画の策定状況、除染の進捗状況 ●除染を進める上での課題 ●国と福島県の除染に対する取り組みに関する評価 ●除染の終了の目安と安全・安心性の回復の目安 ●除染の効果に関する認識 など
	平成25年7月～9月	52	49	94%	
	平成26年7月～9月	52	52	100%	
	平成27年7月～9月	52	52	100%	
除染特別地域に指定されている福島県内の11市町村	平成25年7月～9月	11	9	82%	<ul style="list-style-type: none"> ●国と福島県の除染に対する取り組みに関する評価 ●除染の終了の目安と安全・安心性の回復の目安 ●除染による住民の帰還や安全・安心性の回復の可能性 ●除染を進める上での特に重要な課題 ●中間貯蔵施設の設置の必要性や可能性 など
	平成26年7月～9月	11	11	100%	
	平成27年7月～9月	11	11	100%	

2. 除染特別地域に指定されている市町村の除染に関する課題認識

表2は、除染特別地域に指定されている11市町村の除染を進める上での特に重要な課題に関する認識を示すものである。多くの市町村は平成25年調査から一貫して森林や河川などの除染や仮置場の確保などを課題と認識していること、森林や河川などの除染が実施されていないことを問題視する市町村が増えていること、仮置場の確保のみならず、その管理や借地期間の延長なども課題として指摘されるようになってきていること、絶対値としての除染の目標値を定め、再除染(フォローアップ除染)の実施が必要だと認識している市町村が増えていることなどが分かる。

3. 汚染状況重点調査地域に指定されている市町村等の除染に関する課題認識

図1は、行政区域の全域が除染特別地域に指定されている7市町村を除く52市町村のうち、特措法の全面施行後に市町村主体の除染の実績も予定もない12市町村を除く40市町村の除染を進める上での課題に関する認識を示すものである。多くの市町村は平成24年調査から一貫して中間貯蔵施設や仮置場に関する課題と認識していること、仮置場に関しては「仮置場の確保」よりも「仮置場の維持管理」の方が課題として認識している市町村が多くなっていること、今なお「森林の除染」や「再除染」を課題として認識している市町村が多いこと、「道路の除染」を課題として認識している市町村が増加していることなどが分かる。

表2 除染特別地域に指定されている市町村の課題認識の推移

平成25年調査			
川俣町	●森林全体の除染	●営農再開・事業所再開	●長期的な放射線の管理
田村市	無回答	無回答	無回答
南相馬市	無回答	無回答	無回答
楡葉町	●仮置場の確保	●屋外の汚染廃棄物の処理	●作業班等の能力による除染結果の違いへの対応
富岡町	●現行の除染技術・方法による線量低減効果の限界への対応	●森林全体の除染	●家屋の取り壊しを望む町民への対応
川内村	●仮置場の確保	●除染廃棄物の減容化	●丁寧な除染
大熊町	●仮置場の確保	●現行の除染技術・方法による線量低減効果の限界への対応	●住民の同意取得
双葉町	●現行の除染技術・方法による線量低減効果の限界とその結果に対する住民の不信感への対応	●森林全体の除染	●除染が困難と想定される市街地での対応
浪江町	無回答	無回答	無回答
葛尾村	●仮置場の確保	●住民の要望に見合った除染の実施	—
飯館村	●住民の要望に見合った除染の実施	—	—
平成26年調査			
川俣町	●除染対象外の森林やため池などの除染	●仮置場の設置・管理と中間貯蔵施設の早期設置	●ホットスポット対策の長期継続
田村市	無回答	無回答	無回答
南相馬市	●現行の除染技術・方法による線量低減効果の限界への対応	●除染同意書の取得率の向上	—
楡葉町	●仮置場の確保	●屋外の汚染廃棄物の処理	●作業班等の能力による除染結果の違いへの対応
富岡町	●除染対象外の森林やため池などの除染	●帰還困難区域での除染の実施	●家屋の取り壊しを望む町民への対応
川内村	●効率的な除染方法の確立	●再汚染への対応	—
大熊町	●地権者の同意取得	●仮置場の確保	●除染対象外の森林やため池などの除染
双葉町	●営農再開の可能性を考慮した方法での農地除染の実施	●再除染の工法の確立	●現場に見合った除染方法の選択
浪江町	●住民の要望に見合った除染の実施	●仮置場の確保	●家屋の取り壊しを望む町民への対応
葛尾村	●空間線量を0.23μSv/h以下にすること	●森林の除染方法の確立	●除染後の農地等での土壌改良
飯館村	●除染による目標線量値の確立	●除染対象外の森林やため池などの除染	●仮置場の確保
平成27年調査			
川俣町	●森林の除染手法の開発	●仮置場の設置・管理と中間貯蔵施設への搬出時期の明確化(注1)	●ホットスポット対策の長期継続
田村市	無回答	無回答	無回答
南相馬市	●フォローアップ除染の実施	●森林全体の除染	—
楡葉町	●継続的な放射線量のモニタリング	●森林や河川等の住宅地外の生活圏周辺の除染	●住民へのリスクコミュニケーション
富岡町	●森林除染手法の見直し	●帰還困難区域での除染の実施	●家屋の取り壊しを望む町民への対応
川内村	●高線量地区における安心・安全な生活環境を回復するための効率的な除染の推進	—	—
大熊町	●地権者の同意取得	●仮置場の確保	●除染完了後の土地の維持管理
双葉町	●町民への丁寧な説明と町民の理解を求めるとの国の対応の改善	●不適切除染を防ぐための受注業者との報告・連絡・相談	—
浪江町	●住民の要望に見合った除染の実施	●仮置場の確保と延長	●除染対象外の森林やため池などの除染
葛尾村	●除染の絶対値としての目標値の設定とフォローアップ除染の実施	●地域・地形条件に合った除染の実施	●急傾斜地における除染後の保全管理(客土流出対策の支援)
飯館村	●除染の絶対値としての目標値の設定	●除染対象外の河川・ため池・水路の除染	●線量に応じた除染手法の採用

注1:この表は、除染特別地域に指定されている11市町村が除染を進める上での特に重要な課題について、3つ以内で記述した結果を整理したものである。
注2:平成25年のアンケート調査に関して、田村市と南相馬市は、アンケート調査自体に無回答である。

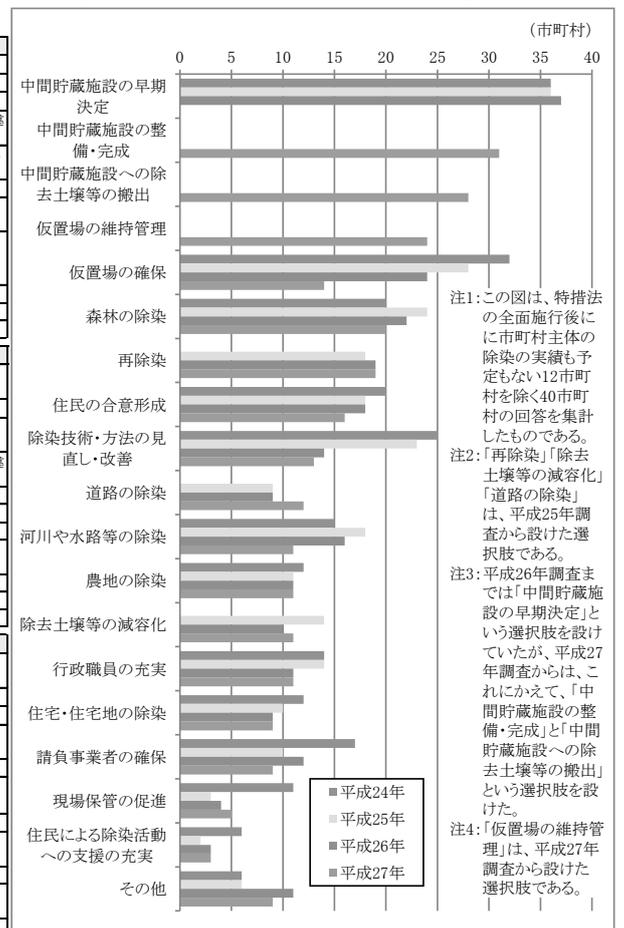


図1 汚染状況重点調査地域に指定されている市町村等の課題認識の推移